

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされておりますので、保護者様・来訪者様等の
閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2024年度) 評価結果報告書

2025年2月26日

社会福祉法人森友会
ひだまりの森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿西新宿8-14-24
西新宿KFビル702

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構
認証評価機関番号 機構 03 -

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H0702006	☒ 福祉	☒ 経営
	②	H1102033	☒ 福祉	☐ 経営
	③	H0902065	☒ 福祉	☒ 経営
	④	H1001023	☒ 福祉	☐ 経営
	⑤		☐ 福祉	☐ 経営
	⑥		☐ 福祉	☐ 経営
福祉サービス種別		認可保育所		
評価対象事業所名称		ひだまりの森保育園		
事業所連絡先	〒	185-0031		
	所在地	東京都国分寺市富士本1-2-16		
	Tel	042-505-7199		
事業所代表者氏名		濱田 あかね		
契約日	2024 年 7 月 1 日			
利用者調査票配布日(実施日)	2024 年 9 月 9 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 11 月 12 日			
自己評価の調査票配布日	2024 年 9 月 9 日			
自己評価結果報告日	2024 年 11 月 12 日			
訪問調査日	2024 年 11 月 19 日			
評価合議日	2024 年 11 月 19 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により行った。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がより的確なものとなるよう配慮した。			

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ・全ての子どもの最善の利益のために「心身の調和的発達」を促す ・全ての子どもの最善の利益のために「基本的な生活習慣」の育成を進める ・全ての子どもの最善の利益のために「集団への参加と自主協調の態度」を養う ・全ての子どもの最善の利益のために「正しい言語生活や自然・社会現象に対する興味と関心」を育てる ・全ての子どもの最善の利益のために「子どもらしい表現によって、生きる力の基礎」を培う
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） (1)職員に求めている人材像や役割 社会人として世の中の規範を守り、相手の存在を認める。「森友会で大切にしていること」に取り組む気持ちがあり、意欲的に取り組もうとする。 (2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 子どもの“やりたい”という思いを受けとめ、子どもに沢山のことを経験できる場を用意する。

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯60(在籍児童数75)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。
回収は専用封筒を用い、回答者からの弊機関への直接郵送、または同方式と事業所内回収による未開封のままの弊機関への郵送の併用にて行った。
自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数

75

利用者家族総数(世帯)

60

共通評価項目による調査対象者数

60

共通評価項目による調査の有効回答者数

45

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

75.0

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」40.0%・「満足」51.1%の計91.1%と高い値を得ており、設問別でも「子どもの興味・関心の伸長」「食事」「急な残業等への配慮」など、全17問中12問で80%台～100%の高い支持を得ている。
自由意見では「年齢混合クラスでコミュニケーションが成長し、英語教育があり、食事も献立と教育含めて素晴らしく、各種連絡もIT化が進みやりやすく、延長・土曜保育にも対応してくれる」「園全体がゆったりとした雰囲気、子どもがのびのび生活でき、職員もいつもにこやかで丁寧に子どもを見て様子を伝えてくれる」「異年齢保育で好きなことをやらせてくれ、自由で、先生が優しい」「先生方が穏やかで、子どもの主体性を尊重してくれ、子どもたちも優しく温かくお友達と関われる子に育っており、活動を強制(一律一斉に)するのではなく、子どもが自分から活動したくなるような場づくりをしてくれている」「わが子は先生のことを好きで、保育園を楽しんでいる」などの声が寄せられている。
要望などとしては、散歩の充実など日常の保育、職員の体制や保護者・子どもへの接遇、子どもの様子の報告・説明や保護者への情報発信に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	43	2	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が95.6%、「どちらともいえない」が4.4%となっている。 自由意見は9件で、「年齢混合クラスで、さまざまな子どもたちと遊ぶことができるようになり、特に年下の子と遊んでお姉さん意識が芽生えた」「友達とも仲よく遊べていて楽しそう」「保育園へ通うようになってから言葉が増え、話が上手になった」「遊んだ後の片づけ等もしっかりできるようになっている」などのほか、活動内容等のさらなる充実を望む声が寄せられている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	43	1	0	1
「はい」が97.7%、「どちらともいえない」が2.3%となっている。 自由意見は6件で、「好きなもので自由に遊べており集中力もついている」「たまに行うクッキングが大好きなようでわが子も一生懸命話してくれる」「英語教育は毎回、家で何があったかを話してくれる」「玩具が定期的に変わるので、子どもがうれしそう」などのほか、子ども一人ひとりへの職員の目配りについて、さらなる配慮を望む声があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	44	0	0	1
有効回答者44人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は6件で、「季節に合ったメニューや手作りのおやつなどおいしそう、家庭のメニューはどうしても偏るので助かっている」「できあいのものではなく、手作りおやつが健康的で自然なものだ」「園内で手作りしてくれ、幼稚園の弁当の話を聞くとよっぽどいいと思う」「おいしいらしく毎日楽しみにしていて、今日何を食べたか報告してくれ、家では食べないものも園では食べる」「ディスプレイされたおやつを「おいしかった!」と教えてくれる」などの声が寄せられている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	22	11	10	2
「はい」が51.2%、「どちらともいえない」が25.6%、「いいえ」が23.3%となっている。 自由意見は11件で、「七夕・クリスマス・ひな祭りなど、楽しい行事をしてくれる」「行事は多く、感謝している」「園庭にはよく遊びに出ているようだ」「立地の制約もあるが、近隣の公園や誕生日でのお花屋さんなど機会はある」などのほか、戸外活動等のさらなる充実を望む声が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	35	0	0	10
有効回答者35人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は3件で、「本当にありがたく、快く対応してくれる」「逆にこちらからの連絡ができない時にも対応してくれ、申し訳ないほどだ」「電話すると対応してくれる」との声が寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	33	11	1	0
「はい」が73.3%、「どちらともいえない」が24.4%、「いいえ」が2.2%となっている。 自由意見は9件で、「ケガなど逐一報告してくれるので助かる」「設備も先生方の意識も十分だと思う」のほか、外部侵入対策や保育中の安全管理について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	42	2	1	0
「はい」が93.3%、「どちらともいえない」が4.4%、「いいえ」が2.2%となっている。 自由意見は4件で、「基本土曜に設定されており、ありがたい」「アンケートがあるわけではないが、年間スケジュール通りに行ってくれている」「年間行事表で大体の予定はわかる」のほか、日程等の連絡などにおける各家庭への配慮について、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	41	4	0	0
「はい」が91.1%、「どちらともいえない」が8.9%となっており、「はい」の値は前回(2021年度・以下同、80.0%)から改善されている。 自由意見は4件で、「子どもの心配事を相談しやすく、どの先生も親身になってくれる」「今の先生たちはよく見てくれていて、感謝している」「保育士たちはよくやってくれている」のほか、コミュニケーション機会の確保などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	41	3	1	0
「はい」が91.1%、「どちらともいえない」が6.7%、「いいえ」が2.2%となっている。 自由意見は5件で、「新しい園なのできれいだ」「子どもたちの降園後、保育スペースや玩具の消毒までやってくれていて、本当にありがたい」「保育士の方々が掃除してくれているようだが、大変そうなので、子どもたちにもやらせてもよいのでは」のほか、清掃について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	43	1	1	0
「はい」が95.6%、「どちらともいえない」が2.2%、「いいえ」が2.2%となっている。 自由意見には「問題ない」の1件が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	41	4	0	0
「はい」が91.1%、「どちらともいえない」が8.9%となっている。 自由意見は6件で、「とてもよく見てくれている」「看護師が親身に対応してくれて、親でも軽いと思える傷も先生方が毎回報告してくれる」「細かいケガなども報告してくれるので信頼できる」などのほか、ケガ・体調不良時の保護者への連絡・報告、保育中の安全管理について、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	29	8	2	6
「はい」が74.4%、「どちらともいえない」が20.5%、「いいえ」が5.1%となっている。 自由意見は8件で、「かなりきちんと対応してくれた」「園からの話を聞く限りでは、まだそういったことがない」「保育士はできる範囲でよくやっていると思う」のほか、子ども同士のトラブル等の把握や保護者への報告・説明などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	41	3	0	1
「はい」が93.2%、「どちらともいえない」が6.8%となっている。 自由意見には「声をかけながら、様子を見ながら対応していると思う」「子どものとりとめのない、いつ終わるかわからない話をしっかり聞いてくれて、子ども自身も先生一人ひとりの名前を覚えて話してくれる」「少ない人数でよくやっている」の計3件の声が寄せられている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	42	1	1	1
「はい」が95.5%、「どちらともいえない」が2.3%、「いいえ」が2.3%となっている。 自由意見は3件で、「しっかり守ってくれていると感じ、むしろ自分が他のお子さんのことをうっかり先生に聞き過ぎてしまった時、しっかり制止してくれたので、徹底されているのだと思う」「問題ない」のほか、プライバシー保護等へのさらなる配慮を望む声があった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	31	10	3	1
「はい」が70.5%、「どちらともいえない」が22.7%、「いいえ」が6.8%となっている。 自由意見は8件で、「今日遊んだ内容等を降園時に教えてくれる」「アプリで日々の決定事項など発信してくれるのでありがたい」などのほか、子どもの成長・発達や日頃の生活、保育内容等に関する保護者との共有などについて、さらなる工夫を望む声が寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	30	5	2	8
「はい」が81.1%、「どちらともいえない」が13.5%、「いいえ」が5.4%となっており、「はい」の値は前回(69.7%)から改善されている。 自由意見は3件で、「おむつかぶれになった時、何度も謝罪してくれて、先生方が忙しいのは理解しているし、ある程度は仕方ないと思っていたが、やはり「気をつけます」と伝えてもらえるだけで安心できた」のほか、保護者の意見への対応に関する声が寄せられている。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	21	1	5	18
「はい」が77.8%、「どちらともいえない」が3.7%、「いいえ」が18.5%となっており、「はい」の値は前回(60.0%)から改善されている。 自由意見には、外部の意見窓口の周知に関する内容が1件寄せられている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
	カテゴリ1の講評		
	法人共通の理念・方針、保育の柱とするものが、保護者や職員に周知されている 「すべての子どもの最善の利益のために」を法人の基本理念、心身の調和的発達と基本的な生活習慣の育成などを保育の基本方針とし、子ども一人ひとりの存在そのものの受容と主体性の尊重、「誉める」こと、異年齢の関わりや表現活動・食事など、大切にする保育の柱を、法人共通の特色として掲げている。保護者にはこれらを見学・入園時に説明し、その日々の実践を、種々の配信・掲示物や保護者会などを通じて伝えている。職員には入職時の研修や常勤者の年1回の自己評価、法人の主任会が行う新人・若手向けの研修などを通じ、理解と実践を促している。 運営の体制と意思決定の仕組み、必要な事柄を関係者に周知させる手順を定めている 組織内の指示系統や指導体制、各職位・職種の職責が、業務分掌表や「職位機能組織図」に定められており、これらを踏まえ、園長・主任及び各フロアリーダーが、経営層として園の運営や保育の統括を担っている。運営全般の折々の方針は、経営層による随時のリーダー会議、または常勤者による毎月の職員会で主に話し合わせ、保育に関する実務的な検討を、別に設ける各階のフロア会議で行っている。会議に参加しない職員には、議事録や出席者からの展開によって必要な事柄が周知され、保護者には主にアプリでの配信により、各種の重要事項を伝えている。 目指す保育と組織運営を園において体現すべく、経営層が現場への啓発に取り組んでいる 経営層は子どもを「誉める」行為や丁寧な所作など、保育において法人が大切にしている規範が、習慣として常に行なわれるよう、折に触れて現場への啓発を行っている。また若手が主力を担う組織の現状を踏まえ、上意下達の指示・指導中心のマネジメントではなく、現場や自身の課題に自ら気づき、主体的に考え、解決しようとする姿勢を各人に培い、組織の文化として根づかせることを目指している。組織内のコミュニケーションがフロア単位にとどまりがちであることから、同世代間・若手同士など、横断的に話し合い、学び合う場を持つことも課題と考えている。		

2			カテゴリー2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行				
サブカテゴリー1(2-1)				
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している			○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
園の重点事業や現場の実務、法人の中・長期的な事業方針に関する計画が作成されている 年度の事業計画に、当年度の運営方針と、組織運営や保育・食事・安全・保健衛生、人材の確保・育成や保護者支援、施設整備その他の「重点事業」を定めている。また同計画の立案は、法人及び事業環境の現状を踏まえた「最重要課題」と取組事項、目標水準や達成の時期が示される、法人策定の「中長期・短期事業計画」も念頭に行うこととなっている。事業計画の中の保育その他の現場の実務については、業務分野ごとに年間及び各期間の計画のもとで実行されており、期間に応じた目標・ねらいや取組内容などを定め、必要な進捗確認が随時なされている。 保護者や職員の声を多様な方法で把握し、地域の状況・ニーズの把握にも取り組んでいる 園の運営や上記の各計画の立案にあたり、保護者の意向を、保護者会や個別の面談での対話、日々のコミュニケーションや、行事後の感想収集などから把握し、現場の職員の意向は、前述の各会議や年間複数回設ける園長との面談、日常の業務内外の会話などから把握している。また保護者や入園前見学で来園する未就園世帯の声、国分寺市の公私立・私立の各施設長会、地域の保育・教育施設等が連携する市の「基幹型システム」などを通じ、地域内の保育・教育や子育て等の状況・ニーズなどを把握している。 経営状況の管理の仕組みを整え、事業環境の動向もさまざまな機会に把握している 関連の各種政策・制度の動向、業界内の種々の話題は、上記の市の施設長会のほか、法人内の系列園園長会、自治体・法人の発信物などから把握している。また園の予算の策定と、その進捗や稼働率などの経営状況の管理は、主に園長が担っており、法人内の園長会で毎月の状況を法人や系列各園と共有している。前のカテゴリーでも言及した現場の主体性の促進のほか、より地域に根差し、親しまれるための取組や、開園9年目を迎える施設内の各種設備のメンテナンス等を、今後の園としての中・長期的課題と考えており、そのための計画の立案も期待される。		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー3の講評		
法人の職員・保育者として理解し徹底すべき規範が、さまざまな機会に啓発されている 職員には入職時に、就業規則上の各種服務規律に定める、社会人・職業人としての各種心得のほか、子どもの人権・尊厳や主体性の尊重、守秘義務の厳守など、法人の保育者として求められる規範・倫理の理解と徹底が促されている。また常勤者は毎年度「振り返りシート」により、園長・副園長と一般職員の各階層で、それぞれの職位に応じて守るべき規範に関する自己評価を行っている。園内の職員・フロアの各会議では、身だしなみや現場での所作・表情、子どもへの言葉かけ、各種マナー等、折に触れて経営層から各人の自戒を促す啓発がなされている。 園と家庭での虐待等の防止や、保護者の個別の意向への適切な対応に取り組んでいる 上記に加え、法人共通の「虐待チェック」により、子どもの尊厳や尊厳を顧慮しない言動を現場で行っていないか、全職員が自身を振り返っており、会議でも関連の報道を踏まえ、経営層が注意を促している。また家庭での虐待等の発生に備え、法人の「虐待防止マニュアル」を常備するほか、事案や疑いが生じた際の通報・連携先機関を定めている。苦情解決制度や玄関の「ご意見箱」について、入園時の説明や園便りへの記載などによって保護者に周知を図るほか、日常の交流や面談からも個別の意向を把握し、実施可能な改善に活かすなど、対応にも努めている。 地域への透明性確保や関係機関との連携、現状で実施可能な子育て支援に取り組んでいる ホームページや国分寺市を通じて園・法人の各種情報を発信しており、沿道に設けた地域向けの掲示板の活用も期待される。実習生の受け入れも行い、ボランティア等とともに、対応のためのマニュアルも常備されている。また市の公私立・私立の各施設長会、地域内の保育・教育関係者等が集う「基幹型システム」への参画など、地域内の共通課題の検討などにも加わっており、見学で来園する未就園世帯には、求めがあれば育児相談にも応じている。今後は保育所体験の実施など、地域の未就園世帯への支援の拡充を図るべく、園内の体制を整えたいと考えている。		

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	
○非該当		
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	
○非該当		
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	
○非該当		
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	
○非該当		
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	
○非該当		
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	
○非該当		
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	
○非該当		
カテゴリー4の講評		
災害・感染症やSIDS・熱中症など、各種の重要リスクへの対策に取り組んでいる 「安全に関する事項についての計画」に、園が行う年間の安全対策全般を一覧化し、これに基づいて各種取組を行うほか、災害・感染症に関する各BCPを作成している。災害時の対応や保護者との連携を、毎月の防災訓練によって確認するほか、子どもの睡眠時の状態確認や、消防署による全職員対象の救急救命講習など、SIDSを含む子どもの心肺停止への対策にも努めている。また所定の点検表による毎月の園内各所の安全確認、猛暑時の戸外活動等の自粛などの熱中症対策や、周期的な要所の清掃・消毒などによる感染症のまん延防止にも取り組んでいる。 事故事例等の共有・検証をはじめ、安全の確保・向上のための取組がなされている 子どものケガ等の事故や、それらに関連する各種ヒヤリハットは、発生・把握のつど原因や防止対策を確認し、記録の共有や会議での報告により、現場に注意を促している。看護師による月次の集計と報告や、重要な事例に関する乳児・幼児会議等での考察もなされるほか、法人が発信する系列各園の事例も随時共有されている。また園舎の内外各所に記録用カメラを設置し、防犯対策や事故等の検証に活用しており、不審者対策訓練も今後実施予定としている。子どもの飛び出し防止のための、玄関扉の開閉に関する保護者・子どもへのマナー指導も行っている。 各種情報の適切な取り扱いを図るべく、仕組みと環境の整備がさまざまになされている 各種情報の管理・利用について、開示・訂正等の請求への対応方針を含め、法人が関連の各種規程やマニュアルを整備し、職員には入職時などに関連の啓発を行い、実習生等には受け入れ時に守秘義務の厳守を求めている。また、園内での端末類の整備、法人内のグループウェアによる各園園長・副園長間の情報共有のほか、重要書類の施錠管理や情報端末・ソフトウェア類のセキュリティ設定など、情報の利活用促進と漏洩防止の両立に向けた環境整備にも取り組んでいる。保護者には各種情報の利用目的などについて、入園時に説明と同意確認がなされている。		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	10/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(●●)		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
○あり ●なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

人材の採用から配置までの仕組みや、労働環境に関する諸制度が整備されている

法人の各園の人材採用は、法人内の担当委員会を中心に、系列各園によるエリア内の養成校訪問や関連イベント出展などのほか、法人サイトや各種SNS、養成校・関連業者を通じた求人、在職者への人材紹介奨励など、多様な方法で行っている。配属・異動は法人の人事委員会が各園の状況を踏まえ、また園内の配置は、各階の子どもの状況や各人の能力・経験とそれらのバランス等を踏まえて決定し、後述の園長との面談を通じ、これらの人事に関する各人の意向等も把握している。就業状況の管理やストレスチェックなど、労働環境の各種整備もなされている。

園長との面談を軸として、各職員の成長や意欲の向上を促す仕組みが設けられている

一般職員と園長・副園長の各階層で、法人共通の「振り返りシート」により、階層ごとに求められる能力・態度等に関する自己評価と年度の振り返り、次年度の目標や受講すべき研修の設定を行っている。また同シートと共通の項目による上司評価を、人事や処遇の参考として、各職員の意欲の向上を促す仕組みも持たれている。これらに加え、園長作成の「面談シート」により、各人の健康や家族の状況、園への要望や仕事上の不安、キャリア志向や年度の目標・取組を把握し、振り返りシートとともに園長・職員間で共有して、成長を支援する取組も行っている。

職員の学びと経験や話し合いの場を多様に設け、保育の質や同僚性の向上につなげている

法人の保育の柱とする「誉める」保育について、提携する他法人と連携し、施設間で職員が往来し、現場の視察と話し合いを通じて知見と技術を高める研修が設けられるほか、中堅・リーダー層向けの研修、法人の主任会による新人・若手の実践的な研修、指導者来園によるオペレッタの研鑽など、法人内に多様な学びの場が設けられている。園内でも年度後半から各階で毎日1名の保育者の配置を入れ替え、組織全体で子どもの育ちの多様性や各階の業務の流れなどを共有するほか、日々の各会議での経営層の啓発や現場の諸課題の検討もさまざまになされている。

カテゴリ7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
昨年度の事業計画における各「重点事業」のうち、「保育内容の充実・質の向上」の分野では、「保育の質の基盤は子どもの安全・安心」との認識を職員全員で共有することや、乳児フロア内の乳児室とほふく室を区画する柵の設置、機会をとらえた啓発による職員の安全・危機管理意識の向上を図ることなどを定めた。 また併せて、子どもの主体性の尊重、異年齢の関わりや「誉める」ことを大切にされた保育の実践についても、組織内で共通理解の促進を図り、不断の質の向上につなげることを目指した。 取組として、計画にも挙げた乳児フロア内の柵の設置のほか、各会議での情報共有などにより、安全管理に万全を期した。また原則毎週のサイクルで実施した各階のフロア会議では、園長・主任の同席のもとで、直近の保育・行事や子どもに関する話し合いのほか、上述の子どもの主体性の尊重や異年齢の関わり、「誉める保育」などを含め、法人共通の保育の柱とするものを話題に、各人が自身の言葉で語り、それに他の職員が傾聴する機会も設けた。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
話し合いは新人や若年層の職員も発言しやすい、いわゆる心理的安全性の高い雰囲気づくりにも配慮し、経営層は語らいの積み重ねを通じ、法人の理念や目標などについて、各人が概念としての把握だけでなく、実践と体験の視点で理解が深められたり、他の職員の言葉に耳を傾けることで、多様な視点の獲得が促されたと考えている。 今年度も引き続き、各フロア会議や毎月の職員会で、職員間の共通理解を深め、実践の質の向上につなげるためのさまざまな話し合いを行っている。また、職員会では髪の色等の身だしなみ、笑顔・静かにゆっくり歩くなどの所作、清潔の徹底や、子ども・保護者への節度と礼儀を踏まえた接遇、いわゆる不適切保育の排除など、法人の保育者としての規範についても、折に触れて園長・副園長から啓発を行っている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度の事業計画の「教育研修(人材育成・人材確保)」の分野では、各職員に法人の各種研修やキャリアアップ研修の積極的な受講を奨励し、各人の知見・技術の向上を促すことを、「重点事業」の一つとした。行政や各教育機関等が行うキャリアアップ研修については、コロナ禍以降、リモートでの受講が可能なものも増えていることから、園内の体制を適宜調整し、各人に受講を促した。またコロナ禍後休止していた、法人の保育の柱とする「誉める保育」に関する法人内の研鑽も、社会や行政における新型コロナウイルス感染対策の緩和に伴い、再開されており、法人内の他園への視察見学と併せ、同様に活発な研鑽を促すこととした。

目標の設定と取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていない

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

取組として、キャリアアップ研修については、1人2科目以上の受講を目標とするよう、職員会等で各職員に指示し、奨励したほか、誉める保育に関する内部研鑽にも、成長途上の職員を中心に、体制の状況に応じ極力参加を促した。また同ブロック内のともだちの森保育園との間で「一日体験研修」を実施し、職員が各園間で行き来し、それぞれの園で保育に入り、実践を通じて学びを得る機会も順次設けた。キャリアアップ研修は新入職者も含め、全員が1科目以上を受講・修了しており、また法人の各種研修も前年度から増加しており、それにつれて研修への参加もさまざまになされている。今年度も同様に各職員の積極的な研鑽を重点事業の一つとしており、キャリアアップ研修に関しては全員の1講座以上の履修を目標として、各人に受講を促している。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1			
利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		☐ 非該当
サブカテゴリ-1の講評			
法人共通の保育の考え方や取組を、法人ホームページで紹介している			
法人のホームページでは、「好きを見つけられる子へ」というメッセージに込めた、法人が大切にしている保育の考え方を動画やマンガで紹介するほか、保育理念・方針や、法人で大切にする「誉める保育」や異年齢保育、子どもの主体性の尊重などについて、写真を添えて発信している。また子どもの育ちや保育者の思い、保育実践の具体的な内容を示したオリジナルの「コンセプトブック」や、法人の散歩に対する考え方や取組をまとめた絵本「あのね、さんぽにいったらね」も閲覧できるほか、各園の自己評価表及び法人概要、財務状況も公開している。			
園に関連するさまざまな情報を、インターネットや市の「保育展」を通じて発信している			
園のページに、所在地・連絡先・保育時間・定員などの園の概要、園へのアクセスマップのほか、0・1歳児と2歳以上児の1日の園での生活の流れと内容、年間の行事予定、避難場所などの情報を掲載しており、第三者評価の評価結果報告書も閲覧可能となっている。市のホームページには、当園の定員や0歳児の保育開始年齢、開所及び延長保育の時間、園のサイトへのリンクなどが掲載されるほか、各園の定員別の利用人数と空き状況などが随時公開されている。			
利用希望者の園見学を受け入れ、園の保育の特色や環境構成の工夫などを説明している			
園見学は、見学者の希望や園の体制に応じて随時受け入れており、平日10時頃から1時間程度を基本とし、園長・副園長が担当している。土曜日や夕方など、勤務の都合や遠方からの来園などにも柔軟に対応している。見学者には、法人共通の保育の特徴や方針を象徴的な写真とともに紹介する、上記のコンセプトブックのほか、園のパンフレットを手渡したうえで、異年齢保育や保育者の関わり、延長保育や副食費等について説明し、保育室を実際に見てもらいながら、前述の目指す保育や環境構成の工夫などを具体的に紹介し、適宜質疑応答を行っている。			

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
個別の入園面談を行い、重要事項に関する説明を行っている 入園時の説明は個別で行っている。入園が内定している家庭に対し、連絡を取って面談の日程を決め、「入園のしおり」・重要事項説明書のほか、子どもの成長・発達や保護者の就労状況、緊急連絡先などの保育開始に必要な情報に関する書類を送付し、面談までの通読と記入を依頼している。緊急連絡先等、記入に誤りがあってはならないものについては、記入例も同封している。入園のしおりと重要事項説明書は、保護者の事前の通読を前提に、保育の基本的な考え方や方針、延長保育にかかる料金や利用上の留意点などについて、重点的に伝えるようにしている。 保育に必要となる個別の情報を収集して職員間で共有し、各種の同意を確認している 面談では重要事項説明書の説明に加えて、個別の情報の確認も行っている。保護者が記入した各種書類の内容を確認しながら、さらに詳細な情報を口頭で聴き取り、記録に残している。食物アレルギーや熱性けいれんなど、体質・特性によって食事や保健に関する個別の配慮を必要とする場合には、看護師・栄養士による聴き取りも行っている。新入園時の情報は一覧表を作成し、職員間で共有しており、複数の職員が連携を図って保育する「チーム保育」の実践に役立てている。重要事項や個人情報の利用への同意、肖像利用の可否等の確認も行っている。 入園直後やサービス終了時の、子どもや保護者の負担・不安の軽減に努めている 入園後の子どもの負担の軽減を考慮して、2週間を目安に保育時間を徐々に延ばす「慣らし保育」を実施しており、子どもの様子や保護者の就労復帰の予定に合わせて柔軟に期間や時間を変更している。保護者が朝の支度に慣れる必要を踏まえ、通勤を想定した登園時間での慣らし保育を推奨している。子ども・保護者の緊張を和らげられるよう、保育者は笑顔での受け入れを心がけ、また保護者が安心できるよう、子どもの日中の様子を肯定的に伝えるようにしている。サービス終了時には、次の生活への不安への支援として、面談や情報提供に応じている。			

サブカテゴリ3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	13/13
3 個別状況の記録と計画策定			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を 個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		☐ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている		☐ 非該当

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
子どもを取り巻く状況を適切に把握し、定期的に記録する仕組みを整えている 入園時には「個人調査表」「食事状況調査」「健康状況調査書」などの書式を用いて、子どもの生活や健康面、家庭の状況などを把握している。入園後は年1回の個人面談を通じ、子どもの発達状況や保護者からの要望などをやり取りしている。緊急連絡先や予防接種履歴などは、変更が生じた際に随時更新するほか、年度初めにも毎年確認している。児童票の「保育経過記録」では、0歳児はチェック表を用いて子どもができるようになったことを随時記録し、1歳以上児では4月・10月・3月に○印を付して、個別の発達の状況を定期的に確認している。 養護と教育の各領域を考慮して指導計画を策定し、計画を保護者にも説明している 「全体的な計画」「年間指導計画」「週案」の3つの計画を策定し、養護と教育の各領域に合わせた活動内容を計画に反映させている。0～2歳児では4期に分けた個別の計画も作成しており、前の期の子どもの姿から設定するねらい、保育者の援助を定め、期ごとに評価・反省を行っている。また保育目標などを「入園のしおり」等を用いて保護者に説明するほか、年2回の保護者会や毎月発行する「フロア便り」では、現在の子どもの姿を踏まえた、その先の子どもの育ちを保護者にも伝え、家庭とともに子どもの成長を支えられるよう、共有を図っている。 子ども・保護者のニーズや変更事項などの情報は、職員間で速やかな共有に努めている 職員間の情報共有のために「フロア共有ノート」を活用しており、重要性の高いものや振り返る可能性があるもの、食事やミルクの状況など、その時々で速やかな対応が必要となる内容を記入し、各職員が出動時に確認してから保育に入っている。日常的なやり取りについては、登園時に家庭から申し出があったことや、園でのケガなど保護者に伝えるべき内容を、「受け入れ表」に一覧形式で記載し、伝達漏れがないようにしている。面談時には「面談シート」に園から伝えたいことを事前にまとめ、面談で把握した家庭からの情報を記録し、職員間で共有している。		

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	☐ 非該当
サブカテゴリ-5の講評		
個人情報の保護や子どものプライバシー等への配慮に努め、保護者にも説明している 個人情報の取り扱いについて説明したうえで、重要事項についての説明に対する「同意書」、個人情報の取り扱いに関する「個人情報に関するアンケート(同意できない項目の確認)」、保護者が撮影したデータの取り扱い(SNS掲載などは控える)に対する「同意書」に、それぞれ保護者のサインをもらっている。子どものプライバシー保護のため、おむつ替えや着替えは周囲から見えない位置で行うほか、園庭の周囲に樹木を植えるなどして、外部からの視線に配慮している。4・5歳児には看護師からプライベートゾーンについて話し、意識づけを行っている。 子どもたち一人ひとりの意欲や意思の尊重に努めている 子どもが自由に活動を選ぶことのできる時間を確保するほか、保育室内の教具は自由に使用可能とするなど、子どもが関心を寄せるものに主体的に取り組める環境を整えている。オベレッタなどの集団活動の際にも、個々の自発的な活動への参加を重視し、参加を強いることはせず、体験の機会が失われないように誘いかける際にも、子どもの気持ちへの寄り添いを大切にしている。また食事に関しても、決められた時間内であれば自分の空腹のタイミングで食べることができるようにするほか、午睡も基本的に本人の意思に任せて身体を休められるようにしている。 子どもの体質や特性への配慮に努め、不適切な保育の防止に向けた取組を行っている 上記に加えて、食物アレルギーや発達特性等、特段の配慮を要する場合にも、個々の状況を職員間で把握し、保護者と連携を図るほか、専門家の助言を援助の参考にしつつ、他の子どもとの生活を通じてともに成長できるよう、それぞれに応じた援助に努めている。虐待の防止と早期発見に向け、行政の関係部署や関係機関との連携体制を整えるほか、保育者による不適切な保育の防止への取組として、職員会で子どもへの接し方や言葉遣いに関する再確認を行うほか、報道された不適切な保育に関する事例を採り上げて注意喚起し、自戒を促している。		

サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当	
サブカテゴリー6の講評			
系列園共通の手引き集に業務の標準を示し、必要に応じて変更を加えている 系列園共通のマニュアル集には、職員の心得・保育マニュアル・虐待防止・衛生管理・感染症対策・アレルギー対応などに関する、守るべき事項や留意事項、手順等を掲載している。同マニュアル集は事務室に常置し、職員がいつでも参照できるようにしている。これらは行政の通知やガイドラインの変更、事故報道、系列園から寄せられた事例や意見をもとに、法人本部による改訂が加えられ、改訂部分に関する情報が各園に通知されており、マニュアル集の冒頭には、改正部分に関する情報が根拠とともに示されたページが綴られている。 確実に業務を遂行できるよう、手順や留意事項を確認する仕組みを整えている 救急車の呼び方、食物アレルギーや熱性けいれん等の個別の情報、清掃箇所などの、即時・随時の確認が必要となる手順や留意事項については、資料やチェックリスト等を用意し、確実な業務遂行や援助につなげている。また「入園のしおり」を全職員に配付しており、保護者対応で不明点がある際には、しおりを確認するよう伝えている。園作成の「子どもの発達をとらえた教材選び」には、教具の種類と年齢別の提供の目安、各フロア・園庭・屋上の環境作りのポイントなどを記載し、保育に活用するほか、心肺蘇生術や避難訓練等の実技研修も実施している。 職員の気づきや事故事例、保護者の意見を活かし、保育の質の維持・向上にあたっている 職員会では、保育の質の向上に向け、各種手引書の内容確認や子どもへの接遇における注意喚起などを行うほか、事故の再発防止に向け、事故の内容・状況・対策の確認や、他園の事故事例やヒヤリハット事例、事故報道等に関する情報共有や、留意事項の確認を行っている。ヒヤリハット報告書には、気づきの内容や周辺の状況、心身の分析、対策案を記載し、回覧して情報を共有している。また保護者参加の行事後にはアンケートを実施するほか、玄関に意見箱を設置するなど、保護者の意見を収集し、それらを業務改善の参考とする仕組みを整えている。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	☐ 非該当
評価項目1の講評		
個々の子どもが十分に環境や遊びに関われるよう、こまめな環境の見直しを図っている 棚やロッカー、マット敷きの場所などは年に数回の配置換えを行い、その時々の子どもの様子に応じて、子どもが落ち着いて過ごせ、自発的な活動につながるよう、こまめに見直しを図っている。毎週1回行っているフロア会議では、子どもの様子の共有や環境設定の検討などを行い、毎週土曜日に子どもの興味・関心、発達状況などを考慮して、少しずつ遊具・教具を入れ替えている。主任会で過去に作成した標準的な教具・教材の選び方に関する資料のファイルも常備し、これを参照しながら、子どもの発達の目安とその段階にふさわしい玩具を出し入れしている。 異年齢の関わりや個々の子どもへの支援により、どの子ども居場所が持てるようにしている クラス編成は0・1歳児と2～5歳児の各集団とし、各階でそれぞれ子どもたちが生活している。年齢の違う子どもとの関わりが生活の基本となっており、年下の子の手本になるなど、育ちや特性の多様性の中で、子どもが自分の役割や居場所を見つけることにつながっている。法人全体で大切にしている「育める保育」では、子どもを認め、受容する姿勢で大人が関わることで、子ども同士でも受けとめ合う風土が育まれ、個別の配慮が必要な子どもには、援助の度合を調節したり、市の巡回相談を利用し、子どもの様子を踏まえたアドバイスをもとに支援を行っている。 小学生や他園の5歳児との交流を行い、就学への期待感が高まるようにしている 5歳児には近隣エリアの小学校との交流会が設けられており、小学校に出向いて1年生とゲームを楽しむほか、散歩の一環として、小学校散歩や校庭散歩の機会も持たれている。また近隣の他園の5歳児と一緒に公園で遊んだりする「5歳児交流会」も開催されており、園以外の同年代の子どもたちと知り合ったり、コミュニケーションを図ったりする機会となっている。午睡が徐々に少なくなってきた4・5歳児では、その時間を活動や散歩に充てるなどして、小学校へ進んだ後の生活リズムにつながるようになっている。		

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

家庭と園でのそれぞれの子どもの様子や、健康状態の変化などを伝え合っている

登園時には家庭での様子を聴き取り、降園時には園での様子を保育者から伝えとともに、0～2歳児では連絡アプリの連絡帳機能も活用して、家庭との連携を図っている。同アプリに家庭での食事、睡眠状況などを入力してもらい、園では日中の食事・睡眠・排せつや活動を入力したものを、個別に配信している。3歳以上でも連絡帳機能を使用でき、大まかな活動報告のほか、排便や睡眠などの状況が気になる家庭に、個別に伝える際などにも活用している。また日中の活動の様子を毎日エントランスでの掲示や配信で、保護者に子どもたちの姿を伝えている。

子どもの状況に合わせた支援を行い、生活習慣の自立へつなげている

上記の連絡アプリも利用して、子どもの家庭での様子をこまめに把握するほか、園での様子を見ながら、離乳食の段階やトイレトレーニングなどを進めてよいと思われるタイミングで保護者に個別に声をかけ、同じ方向性で子どもへの支援を行えるようにしている。食事に関しては、個々の食べたいタイミングで食事を摂れるよう、活動や遊びの区切りがついたところで食事を始められるようにしている。排せつについても好きなタイミングでトイレに行くことができるほか、おむつが必要な子どもや排便のあった子どもはアプリに記録し、保護者にも知らせている。

個々の休息のニーズに合わせた午睡時間の調節などを行い、生活にメリハリをつけている

0歳児は眠たい時に休息が取れるよう、いつでも休息を取れる環境を整えるほか、その他の年齢についても家庭での様子を聴きながら、子どもの状況に応じた休息が取れるようにしている。体力のついてくる幼児では、保護者から午睡を短くしたいという申し出があれば、時間を短くすることも検討しつつ、午後の活動の様子など、子どもの全体的な姿を把握して、その子に合った休息を調節できるよう、家庭とやり取りしている。4・5歳児では就学を意識し、徐々に午睡をなくしていき、室内活動などに静かに取り組むことができるようにしている。

3 評価項目3		評点(〇〇〇〇〇〇)
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
子どもが意欲的に取り組み達成感を味わい、生活のルールに気がつけるようにしている 幼児クラスは、ごっこ遊びやままごと、静かに制作に取り組む場所や友だちと一緒に遊べる場所など、さまざまにコーナー分けを行い、好きな時に絵の具の描画活動等ができるよう、画材や用紙等を固定の棚に準備している。絵やブロック、月ごとのテーマの制作物など、さまざまな作品は子どもの好きな場所で名前を添えて展示でき、達成感を感じられるようにしている。任意参加の集まりでは、道具の使い方や集団生活のルールなど、保育者から内容を伝えつつ、子どもが自分たちでもよりよい使い方・過ごし方を確認できるように工夫している。 日常的な対話や表現活動を通して、思いを表現する楽しさを味わえるようにしている 遊んでいる子への関わりや、できあがった作品への賞賛など、子どもを見守るタイミングと声をかけるタイミングを保育者が考えながら、「誉める保育」につなげている。異年齢の関わりにより、室内の教材・遊具の使い方を教えてもらう経験などを通じて、さまざまな言葉のやり取りを楽しんでいる。乳児クラス・幼児クラスそれぞれの保育室には、机や棚を置かない表現スペースを設け、ダンスやリズム活動、オペレッタなど、身体を使った表現活動を楽しめるようにしている。オペレッタでは年齢に応じて難易度を変え、より豊かな言葉に触れる経験をしている。 散歩や戸外活動は少人数を基本とし、ゆったりと楽しむことができるよう配慮している おやつやジュースを持参して公園で味わう「ピクニック」では、身近な自然に見られる季節の移り変わりを感じながら、いつもの散歩とは違う楽しみを味わっている。散歩は乳児・幼児ともに少人数で行い、ねらいや目的を持ちながら、子どもたちもじっくり楽しんで戸外活動に参加できるよう配慮している。また屋上遊びでは固定遊具のほか、シャボン玉や三輪車、大縄などを楽しみながら身体を動かしており、5歳児はバスでの遠足や収穫体験の機会も設けるなど、子どもの意思を尊重した活動の日々の保育の中心に据えつつ、戸外活動の機会も多様に設けている。		

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

行事では子どもが期待感を持って参加し、意欲的に取り組める工夫に努めている

園内で行う季節行事のほか、保護者参加の大きな行事として夏祭り(夕涼み会)、「もりんピック(運動会)」、「フェスティバル(発表会)」卒園式を行っている。もりんピックでは小学校の体育館を借り、乳児は親子競技やダンス、幼児は親子競技やダンスのほか、かけっこやパラバルーンなどの演目も行っており、園生活での育ちや成長の喜びを保護者とも共有する機会としている。また子どもたちが行事の飾りを作ったり、発表の場を楽しみに思えるような導入を行うことで、一人ひとりが期待感を持って参加できるように配慮している。

友達とともに過ごし、協力し合う経験を通して、子どもたちの成長を促している

幼児が端午の節句に合わせて合同制作で手形で鯉のぼりを作るなど、集団で取り組む活動も行事に採り入れている。5歳児の「おたのしみ会」は、日常の保育とは違う経験ができる1日として楽しんでいる。Tシャツ・プラ板作り、流しそうめん、宝探しなど、朝から夜8時頃までさまざまな活動を行っており、友達同士で協力できる集団遊びなども採り入れ、特別感を味わいながら楽しんでいる。また他の年齢の子どもたちが5歳児への進級を心待ちにするなど、期待感や憧れの高まりが促される機会ともなっている。

保護者とともに保育や行事を進め、理解を深めてもらうための取組がなされている

保護者に保育を体験してもらう保育参加に合わせて育児講座を開催し、日頃の子どもの生活に保護者も触れられる機会とし、育児講座では外部の専門家の講演を聴くことで、家庭の養育力向上につなげている。ピクニックなどに行った際には、配信と掲示で活動の様子を知らせるほか、園便りやフロア便りなどを通じて、行事予定や取組の過程などを発信している。行事後のアンケートでは保護者の意見・意向を把握し、行事運営の見直しに活かし、乳児ではメダルのコメントや万国旗作りで保護者にも協力してもらいながら、活動への理解を深めてもらっている。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	☐ 非該当
評価項目5の講評		
子どもの様子に合わせて休息を取りながら、無理なく安心して過ごせるようにしている 子どもの体調や成長に合わせて、子どもが欲する時に横になって身体を休められるよう、マットを出すなど、必要な環境設定を行っている。夕方からはくつろいでゆったり過ごせるよう、絵本などの静的な活動を中心とし、信頼関係の築けている保育者が関わられるよう、乳児・幼児それぞれの職員が必ず入るよう体制を組んでいる。基本的な保育の考えや進め方は日中と大きく変えず、子どもが安心して過ごせるよう保育者が声をかけたり、スキンシップを図ったりしながら、リラックスして過ごせるよう配慮している。 日中とは異なる遊びや異年齢の関わりを通じて、楽しく過ごせるようにしている 朝や夕方の時間帯には、日中の活動とは異なる塗り絵を出すなど、子どもたちの様子に合わせて、スポット的に遊べるものも用意することで、子どもたちが1日の園での長い時間の中で、気持ちを停滞させることなく楽しく過ごせるよう配慮している。また毎日の開所から8時頃までと、17時30分過ぎ頃からの、子どもの人数が少なくなる時間帯には、乳児室に幼児も合流することから、安全面に配慮しながら、日中とは異なる異年齢の関わりを楽しんだり、いつもと違う遊具で遊んだりして過ごしている。		

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

食事のタイミングや量の調節など、個々の意欲を尊重した食事提供を行っている

乳児では、個々の食事形態や活動量によって食事の順番を決めたり、入れ替えたりしており、活動の区切りがいたら手を洗ってテーブルにつくようにしている。幼児も配膳ワゴンの準備ができると、食べたい子どもから個々に準備をし、配膳担当の保育者と食べたい量を確認しながら、自分の体調や食欲に合わせた量を食べるようにしている。ハロウィンなどの行事食や、「おたのしみ献立」と呼ぶリクエスト献立を採り入れ、食事の時間が楽しみになるような工夫を行っている。職員も可能な場合は幼児とともに昼食を摂り、食具の使い方を伝えたりしている。

アレルギーによる除去が必要な場合の仕組みを定め、安全な食事提供につなげている

入園時に調査票「アレルギーについて」を配付し、食物アレルギーの有無、喘息の有無、アトピーの有無を聴き取り、医師が記入した「生活管理指導表」を提出してもらっている。食物アレルギーがある子どもには個々の献立を作成しており、毎月園側の確認後に保護者に配信し、両者での確認を行っている。除去献立はすべてのアレルゲンを除いた統一献立を作成し、固定の席で食事を摂っており、寂しくならないよう保育者が一緒に喫食するようにしている。エビベンの預かりが必要な場合には「エビベン・内服薬預かり与薬依頼書」とともに薬を預かっている。

年齢に応じたさまざまな食育活動を通じて、食への興味・関心を高めている

調理体験として乳児では豆乳ジュース作り、2歳児はトウモロコシの皮むき、幼児ではキュウリの塩昆布和えなど、季節を感じたり旬の食材に親しむことを大切に、食への関心を育んでいる。同じジャガイモを使っても、乳児は個別の紙皿の上でポテトサラダを混ぜる工程、幼児ではマッシャーで潰し、さやむきした枝豆と塩昆布、ツナを混ぜてサラダに仕上げるなど、年齢や発達に応じて工程を変え、それぞれに楽しめるようにしている。乳児から食器を運んだり下げることなどを始め、2歳からはトレーで運ぶなど、できることを徐々に増やしている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当
評価項目7の講評		
健康や安全への意識を育み、知識を伝える保健指導や安全教育に取り組んでいる 看護師による保健指導では手洗いのほか、身体には人に見せたり、触らせたりしない部分があり、それは友達も同様であることを伝えている。手洗いや鼻かみ、排便後の処理などの所作を身につけられるよう、保育者は日々援助に取り組んでおり、幼児クラスでは手洗いのイラストを掲示するほか、鏡・ティッシュを設置して自発的な取組を促している。園庭や遊具・道具の使い方、公道の歩き方などはそのつど伝えるほか、ケガをきっかけに危険や注意事項を知らせたり、考える時間を設けたりしている。避難訓練の際には緊急時の行動や姿勢を教えている。 子どもたちが健康的に過ごせるよう、さまざまな対策を講じている 子どもの健康状態は、定期的に行う嘱託医による健康診断のほか、日々の視診や検温といった健康観察、保護者からの情報提供などによって把握している。また看護師が保育室を巡回し、元気がない・疲れが出ているなど、保護者から聴き取っている場合には頻回に確認し、体調の急変に備えている。水分補給を定期的に促すほか、幼児クラスではいつでも水分を摂取できるようジャグボトルを用意するほか、発汗時や汚れた時の着替え、猛暑時の外出の自粛、睡眠時の呼吸や体勢の確認など、子どもが健康的に過ごせるよう、さまざまな対策や配慮を行っている。 健康の維持・向上に向け、環境面の配慮や保護者への情報提供などに努めている 保育室内の衛生状態の維持・向上を図るため、毎日教具・玩具を消毒するほか、室内の温度・湿度を管理し、適宜の換気も行っている。また嘱託医との連携を図っており、上述の定期的な健康診断に加え、必要時の相談や医療情報の提供に応じてもらっている。家庭での健康の維持・向上の参考となるよう、保護者に向けた保健情報の提供に取り組んでおり、園内で感染症が発生した際には、発生状況を掲示や配信で伝えて注意を促し、毎月発行する保健便りには、感染症時の対応や予防策、子どもの成長や身体、生活リズムなどに関するコラムを掲載している。		

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

多様な家庭環境に対応すべく、柔軟な子育ての支援に努めている

子どもの育ちをともに支えてゆくパートナーとして、育児に対する不安や葛藤への傾聴と寄り添いを心がけており、必要に応じて面談の時間を設けて助言したり、児童福祉施設として、専門機関につなげたりなど、必要な支援を行っている。保護者の就労状況や通院等の事由による利用日や利用時間の変更には柔軟に応じており、補食・夕食の提供に関する決まりも整えている。また保護者の宗教的な背景や子どもの体質・特性等に関する情報を収集し、個別の支援に努めている。各種の便りでは、季節性のある内容や育児の参考となる情報を保護者に発信している。

子育ての不安を和らげられるよう、保護者同士の交流機会を設けている

保護者の育児の孤立化を防ぎ、育児への不安を和らげ、安心して子育てができるよう、保護者同士が交流できる機会を設けている。年2回実施する保護者会では、自己紹介や自由懇談の時間を設けている。事前に保護者が気になっていることや相談したいことに関するアンケートを実施し、寄せられた内容から保育者が話題を選別し、保護者同士で話し合ったり、内容によっては園として回答を行ったりしている。「もりんピック」では親子競技を設けるほか、夏祭りも保護者参加で実施するなど、各種の行事を通じて保護者同士の交流も深められている。

保護者会や保育参加など、さまざまな機会に保護者に子どもの成長を伝えている

年2回実施する保護者会では、スライド資料を作成して子どもの姿や活動の様子を説明するほか、年度後半の会では次年度の見通しも伝えており、5歳児については就学に向けた留意点も伝えている。春には午前中に保育参加を行って、子どもの様子を見てもらい、午後には育児講座を実施しており、今年度は講師を招き、「大人と子どもの関わり方」をテーマに実施している。秋にも保育参加を行い、その後個人面談の時間を設けている。個人面談には保育者に加え、園長もしくは副園長が同席し、聴き取った内容や伝えた内容は「面談シート」に記録している。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評		
戸外への散歩を通じたさまざまな取組によって、感性や社会性が育まれている 近隣の公園などに散歩に出かけており、戸外のさまざまな事象に触れた時の子どもの気づきやつぶやきに保育者が応え、共感できるよう、少人数で出かけることを大切にしている。公園の遊具で身体を動かして遊んだり、自然物から季節を感じたりするほか、虫の探索や植物の観察・収集を楽しんでおり、収集した自然物を用いた工作も楽しんでいる。また道すがら行き交う地域の方と挨拶を交わすなど、社会と関わりを持つ機会にもなっているほか、交通ルールや公道の歩き方、公の場におけるマナーを学ぶなど、子どもの社会性や公共意識が育まれている。 地域資源を活用した取組を通じて、子どもたちがさまざまな体験をしている 地域資源を活用した取組を通じて、子どもたちがさまざまな体験をしている。上記の公園等への散歩や自然体験のほか、年長児は就学に向けた取組の一環として、学校見学に出かけている。誕生児は誕生日当日に保育者とともに花屋へ出かけ、花を購入している。この取組を通じて、子どもたちには、保育者と誕生児だけで出かける特別感がもたらされるほか、好きな花を選べること、さらに店員からも祝福の声をかけてもらうことが、自分を大切にしてもらえているという実感につながる、重要な取組となっている。		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	定期的な模様替えと玩具・教材等の入れ替えを行い、子どもの育ちの幅を広げている	
内容①	異年齢クラスを基本とする各保育室では、乳児会議と幼児会議とでそれぞれ職員間で話し合い、定期的に模様替えを行っている。幼児ではロッカーの配置を変えることで、支度・着替えと室内の活動それぞれに集中しやすくなったり、乳児では子どもの歩行の安定などに合わせて0歳児スペースの配置を見直すことで、より活動しやすくなったりしている。そうした一定規模の環境の変更以外にも、毎週土曜日に玩具・教材等の入れ替えを行うなど、子どもたちの興味や関心を観察しながら、保育を停滞させることなく、遊びや活動の広がり・深まりを促している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル②	子ども自らがケガや病気の予防に取り組めるよう、保健指導や安全教育を行っている	
内容②	手洗いや鼻かみなどについては、低年齢児においては一緒に行いながら手順を知らせ、幼児クラスでは手洗いのイラストを掲示したり、鏡・ティッシュを設置したりするなど、子どもの自発的な行動を促す環境を整えている。看護師による保健指導も実施しており、手洗い指導ではノパンのカビを使った実験を行ったり、手洗いの歌を歌ったりなど、工夫がなされており、プライベートゾーンに関する話を通じて、自分や友達を守ることも伝えている。ケガの防止に向けた玩具・道具の使い方、交通ルール等の指導のほか、避難訓練では緊急時の行動や姿勢も教えている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	さまざまな機会を通じて、子どもの成長の姿や発達の特徴を保護者に伝えている	
内容③	送迎時の対話や連絡アプリで日々の保育内容や子どもの様子を伝えるほか、写真の配信も行っている。春・秋に保育参加を実施し、日頃の子どもの生活と遊びの様子を見てもらうほか、個人面談も行って子どもの成長を共有し、家庭での姿も聴き取っている。また夏祭りや「もりんピック」「フェスティバル」など、保護者参加の行事を実施するほか、集団活動の実施後には玄関ホールに設置したモニターでスライドショーを上映し、写真付きの活動報告も掲示している。保護者会では子どもの発達の特徴や成長の見通しを、保育活動の内容とともに伝えている。	

No. 特に良いと思う点	
1	タイトル 活動や遊びだけでなく、生活全般にわたるさまざまな面で、子どもの自主的な選択や決定が尊重されている
	内容 乳児クラスの保育室は、年度前半は0歳児と1歳児のコーナーを分け、後半にかけては徐々に割合を見直したり、表現活動に使えるスペースを増やすなどの変更を行っている。一斉活動ではなく個々のリズムを大切にし、意思を確認しながら、園庭に行きたい子と室内で遊びたい子で分かれたり、散歩も2～4人程度で分かれて行くなど、1日の流れが楽しくスムーズになるように配慮している。幼児クラスも、コーナー分けされたさまざまな遊びから好きなものを選んだり、食事のタイミングを自分で決めるなど、自主的・意欲的に生活できるよう工夫している。
2	タイトル 食事やおやつの時間は食育活動や日常生活とのつながりを持たせ、心身の発達や生活習慣の獲得にも役立っている
	内容 乳児から発達に応じて行う食育活動では、法人の担当栄養士と連携して計画を立案している。素材に触れたり、旬を知ること大切に各活動を企画・実施し、調理体験や夏野菜等の栽培活動などに取り組んでいる。また食事やおやつの時間が、心身の発達や生活習慣の獲得にも自然につながるよう、自分で食べるタイミングや量を決めたり、年齢に合わせた配膳・下膳の取組、汚れたことがわかるようにエプロンの着用なしで食事をするなど、さまざまに工夫している。入園説明会では離乳食の実物サンプルを保護者に見てもらい、実際の提供の形状や量を伝えている。
3	タイトル 保育の質の向上や事故の再発防止に向け、職員会などの機会に、職員間の認識共有を図るための手引書や援助の基本の確認を行っている
	内容 子どもの自由な遊びを保障するため、子どもの発達や興味を把握して教具の見直しを行っており、発達相応の教具の種類と提示に関する認識共有を図るための、学びの機会を設けている。遊びを妨げず、必要に応じて誘いかけのための援助を行うためには、職員間の認識共有が必要となっており、大人の位置取りや顔を上げること、静かな所作などの基本を「職員心得マニュアル」で確認している。また不適切な保育への自戒の機会として、名前の呼び方や子どもとの距離感を再確認し、事故防止に向けた対策や事故が発生した時のルールの確認なども行っている。
No. さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル 地域との共生・保護者との共通理解をともに深めるための、園を地域に開く取組や、保護者への情報発信のさらなる工夫が期待される
	内容 園の立地などから、地域との関わりが希薄となりがちな点を課題としており、より地域に開かれた園であるべく、園を地域の子育て家庭や近隣住民に開放する活動の活性化を図りたいと考えている。また今般の利用者調査も踏まえ、園の保育や法人の方針などについて、保護者との相互理解を深めることも課題ととらえている。日々の掲示・発信物や保護者会で、子どもの生活や活動を、その中で培われる成長とも関連づけつつ伝えたり、「森友会で大切にしていること」などに示される、法人共通の保育者の規範などを、保護者にも発信してゆく工夫を期待したい。
2	タイトル 軽微な事故事例やヒヤリハットを、ケガの発生の抑制につなげる工夫について、現場の負担にも配慮しつつ検討することを期待したい
	内容 保育中の事故のうち、受診に至らない軽微なケガについては、記録の書式は受診レベルのケガやヒヤリハットのそれと異なり、事実情報のみを記載する形となっている。そうした軽微な事象の中にも、保育者の配慮などによって防ぎ得たものが含まれている可能性を考慮すると、現場の負担に配慮しつつ、原因・対策の考察や、集計結果からの傾向の把握・分析など、事例を職員のリスクセンス向上に活かす工夫も一考されたい。またヒヤリハットはものが落ちていた等の誤飲・誤嚥リスクが中心となっており、ケガのリスクに関しても活発な把握と共有が期待される。
3	タイトル ソフト・ハード両面における今後数年の園の課題や取組・目標等を、年度の事業計画との連動も意識して検討してみることも期待される
	内容 経営層は若手が主力を担う組織の現況から、トップダウンのみによらない、各職員が日々の問題解決に主体的に取り組む組織の文化を培うことや、組織内のコミュニケーションがフロア単位でとどまりがちな点から、同世代間・若手同士など、より多様に話し合いや学び合いを持つ場を設けることを、今後の課題と考えている。上述の地域との交流促進や、経年劣化も想定した各種設備のメンテナンスなど、その他の諸課題と併せ、まずは経営層間で園の近未来像を話し合い、事業計画の章立てに合わせ、今後数年の取組・目標を検討してみることも期待したい。